



杉浦敏和 議員

### 小規模特別養護老人福祉施設（小規模特別養護老人ホーム）の建設について

**問** 建設の目的、事業規模と論地町にもつてくる理由は。

**答** 建設予定地としては、地域密着型の特別養護老人ホームのよさを活かして、住民の方々と一緒に生活をしていくことを考え、地域の方々が入りやすい平屋造りを想定。数カ所の候補地より論地町三丁目地内を整備予定地と決定。より在宅生活に近い家庭的な雰囲気、高浜市民だけが利用できる、社会福祉法人が運営する定員29人以下の小規模特養が最適と判断し、4月に町内会に説明。いただいた意見等は関係者と調整していく。

**問** アサヒサンクリーン高浜ケアハウスとの事業内容の違いは。

**答** 高浜ケアハウスは、民間資金等の活用による公共施設の整備、養護老人ホームは、事業者の施設整備に国の補助金を財源に整備。補助金交付方法の差異

はあるがケアハウスと同様な施設整備形態である。

**問** 今後の計画は。

**答** 正式決定後、施設を本年度末完了、来年6月開所予定です。

### 地域の公園整備について

**問** 論地子ども広場の廃止について。

**答** 広場設置後、18年を経過し、周辺環境の変化による、施設利用者への減少傾向を受け、高取小学校区の公園等のあり方の検討を進めてきました。利用者把握した結果、施設維持の費用対効果などを踏まえ設置当時の目的は達成できたと判断し廃止する。

**問** 高取南部老人憩いの家と隣接するハーモニックタウンの子ども広場一体の公園整備は。

**答** 災害時の一時避難所となる広場の確保が必要なことから、防災機能を備えた公園整備を考えている。進め方は、計画の段階から地域の皆さんの参画によるワークショップやグラウンドワークを計画しており、地域交流の場、憩いの場として活用されるために、地域の人々の意見を十分反映する必要がある。来年度、公園整備のための地域組織を立ち上げ、現地測量や基本設計等について進めていく。



内藤とし子 議員

### 災害廃棄物の処理について

**問** 碧南市の中部火力発電所に入れるという災害廃棄物（震災ガレキ）について住民の頭越しに話があり、住民合意や情報開示など必要と考えますが見解を。また、放射線量の数値はいくつを安全な数値とするのか。放射線が入っていた場合拡散する可能性があるがどう対応するのか。燃やした際の飛灰について管理や対応は。さらに岩手県のガレキはめどが立ったと聞く。宮城県は3分の1にガレキが減ったので受け入れていない自治体には新たに協力が要かどうか検討し直すと言う情報も入っているがどうするのか。住民合意と安全性が担保されなければ一時中止するよう県に申し入れるべきと考えるがどうか。

**答** 災害がれきの受け入れは当然住民の理解、納得が前提で、地元説明会の開催を求めているところですが地元説明会の予定も公表されていない。今後県に

おいては、各種の環境調査等実施後、県独自の受け入れ基準が示されることになるがほとんどの受け入れ自治体が国の安全基準より厳しい基準を設定し、住民の皆さんの安心を得るよう努力されている状況を勘案すると、安全基準は国よりも厳しくなるのではないかと考える。環境省によると災害廃棄物の処理は被災地で2回、放射線量の測定をした後搬出し、受け入れ先で再度測定し埋め立て処分をするとしています。県でも情報は把握していると思われるので作成を進めて全体計画に反映されてくると考える。

### 保育園、家庭的保育を速やかに設置せよ

**問** 平成23年度23人、平成24年度47人と待機児、特に3才未満児が増えているが自治体は保育に欠ける子どもは預からなければならぬと規定されている。保育園かやむを得ない場合、家庭的保育を速やかに設置せよ。

**答** 家庭的保育は子どもを預かれるスペースが確保できれば、比較的簡単に開設することができるので少人数での家庭に近い保育を実現する家庭的保育の増設を考えています。